



## シリア：「穏健な反体制派」の崩壊と「ヌスラ戦線」の伸張

シリア北部のアレッポ県やイドリブ県で、「自由シリア軍」をはじめとする「穏健な」反体制武装勢力諸派の敗退が続いている。2015年3月9日付『シャルク・ル・アウサト』紙は、「ヌスラ戦線」は「自由シリア軍」諸派を根絶し、穏健派を侵食することを通じてシリア北部で拡大する」と題してシリア北部での武装勢力諸派の動向を要旨以下の通り報じている。

- アル=カーイダの支部である「ヌスラ戦線」が（「自由シリア軍」の一派である）「ヌールッディーン・ザンキー運動」の部隊を攻撃する懸念が高まっている。「ヌスラ戦線」は、これに先立ち2014年末にイドリブ県で「シリア革命家戦線」（指導者は反体制武装勢力の著名人だったジャマール・マアルーフ）を壊滅させ、3月初旬にはアメリカの支援を受けていた「ハズム運動」の拠点を制圧した。
- 「ヌスラ戦線」は、常時様々な口実に基づいて「穏健な反体制派」を攻撃し、諸派を根絶しようとしている。これは、「イスラーム国」に対抗して「ヌスラ戦線」の首長国を樹立する準備である。諸派を攻撃するためには、「墮落した者との戦い」、「西洋諸国、アメリカ政府、シリア政府の手先」のような口実が作り出される。
- カタルが「ヌスラ戦線」を資金援助し、それによって「ヌスラ戦線」にアル=カーイダと絶縁させようとする交渉が行われたとの報道がある。ただし、「ヌスラ戦線」はこの報道を否定する声明を発表している。
- 最近連合軍やシリア軍の爆撃により「ヌスラ戦線」の幹部が相次いで死亡しているため、「ヌスラ戦線」は爆撃を避けるために民間人の居住地に拠点を作ろうとしている。

### 評価

「ヌスラ戦線」の拡大は、「穏健な反体制派」を支援・強化して「イスラーム国」対策に当たらせたり、シリア紛争の局面を開きようとしたりする政策の行き詰まりを象徴している。特に「ハズム運動」は「ヌスラ戦線」に敗退して解散に追い込まれたのだが、このできごとはアメリカによる「穏健な」反体制派支援政策に打撃を与えた。その一方で、2012年夏以降「ヌスラ戦線」や「イスラーム国」が、アメリカなどから「穏健な」反体制派と呼ばれる諸派に代わって戦闘の主役となった原因は当時からほとんど変わっていない。すなわち、「穏健な」反体制派自身の墮落した振る舞いや戦場での弱体ぶりが、彼らに対する地元の支持を喪失させたこと、アメリカなどによる「穏健な」反体制派への支援は、彼らの振る舞いの改善や戦闘力の向上に結びついていないという状況が、現在も続いているのである。

また、現在のような局面で「ヌスラ戦線」を支援することによって同派をアル=カーイダと絶縁させ、「穏健な」反体制派と同様な存在にする試みがあることも、シリア紛争に参加する反体制武装勢力諸派に対する各国の認識や政策が場当たりの無責任なものであることを象徴している。そもそも、「ヌスラ戦線」そのものが「イラク・イスラーム国」（当時）やアル=

カーイダが、自らの存在を隠した上でシリアに勢力を扶植しようとして設立したフロント団体であり、同派を買収してアル=カーイダと絶縁させようとする試みは、「アル=カーイダ隠し」に協力する行為に他ならない。また、アメリカなどが「テロ組織」に指定して攻撃対象としている「ヌスラ戦線」に対し、カタルが資金援助を持ちかけているという説が出ること自体が、シリア紛争や「イスラーム国」対策に関与する諸国が自らの利害関係を最優先し、シリア人民を省みない矛盾した対応を繰り返している現実を如実に示している。

そうした中で、連合軍やシリア軍の爆撃により「ヌスラ戦線」の損害が増しているという情報は注目すべきである。民間人と混在することによって爆撃を避けようとする戦術は、「ヌスラ戦線」だけでなく「イスラーム国」も採用している。「ヌスラ戦線」は「穏健な」反体制派が占拠していた地域を奪取して爆撃を避ける場所を得ているが、「イスラーム国」の場合は、外国人戦闘員を住宅街に配置し、地元の戦闘員を攻撃を受けやすい拠点や検問所に配置しているとの情報もある。そして、そうした戦術により、「イスラーム国」の中で外国人と地元の戦闘員との間で対立・戦闘が生じている模様である。

(イスラーム過激派モニター班)

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>